



青葉山エリア現地視察 (2月14日)
青葉ホール・市内中心部メモリアル拠点複合施設の立地となる青葉山交流広場、歴史的景観と青葉山の自然環境が調和した眺望“政宗ビュー”の実現に向け修景事業を進める大手門復元エリア、令和5年4月26日から開催の「全国都市緑化フェア」に向け整備が進む公園センター(仙臺緑彩館)エントランス広場を視察しました。



朝のご挨拶
水曜日は区内の定点で行っております。



公明党宮城県本部 復興創生会議 (3月5日)
石巻市で開催し、人間の復興10年委員会のメンバーとして、政策提言を発表しました。



設置型ベビーケアルーム『mamaro2』視察 (3月15日)

「家事を家族事」をキャッチフレーズとし、本年2月に東北第一号として、七北田公園土地緑化ホール(泉区)に設置しました。授乳・離乳食・おむつ交換が可能で、男性も利用可能な設置型のベビーケアルームで、完全個室で除菌機の設置や抗菌施工もしているため、コロナ禍の感染症対策にも対応しています。



石巻市震災遺構門脇小学校視察
4月3日のオープンに先立ち、視察致しました。津波と共に火災が発生し、校舎内にいた児童と教員、地域住民200人以上が裏山(日和山)に避難。防災教育は大事であります。

佐々木まゆみプロフィール
昭和39年7月仙台市生まれ。
平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野区選挙区)。現在3期目。
【仙台市議会】
総務財政委員会、歴史まちづくり調査特別委員会。

日々の活動はフェイスブックを御覧ください。



Facebook

ヤングケアラーへの支援体制強化、 中小企業への給付金の決定等、公明市議団の 政策が前進へ!

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが宣言されてから2年。医療関係の皆様、日常の暮らしを支えて下さるエッセンシャルワーカーの皆様のご活躍に心より感謝申し上げます。

この間、様々な環境におられる方々から、日々の生活に支障をきたし困難な状況を強いられている一人一人の切実なお声を聞いてきました。こうした方々の思いに寄り添いながら、改善を図ることに一層努めてまいります。

東日本大震災から11年が経過しました。これからも多様化する被災者の一人一人の課題に丁寧に向き合い、『心の復興』『人間の復興』を成し遂げるまで、被災者に寄り添い続けてまいります。

令和4年新年度予算では、公明党仙台市議団で要望してきた、ヤングケアラー支援体制の強化、新生児誕生祝福事業、夜間中学校設置準備などの新たな事業が多く盛り込まれました。また、仙台市独自として中小企業等事業復活支援給付金の対象を国の事業復活支援金の給付決定を受けた全ての中小企業者に拡大することを、公明党市議団で強く要望し決定しました。音楽ホールと市内中心部震災メモリアル拠点の整備については、地下鉄東西線国際センター駅隣接の青葉山交流広場に両施設の複合整備を目指すことが決定しました。新たな杜の都のシンボルとなるよう、今後も協議してまいります。

仙台市議会議員
佐々木まゆみ

3月16日に発生した地震に関する緊急要望を提出 (3月28日)



3月16日深夜福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生。道路・鉄道・ライフライン・建物への甚大な被害が起こり、多方面にわたり影響が出ました。

こうした状況を踏まえ、仙台城址など被災文化財の早期復旧、上下水道管の耐震化への促進など18項目の要望を村井県知事に提出しました。

高齢者・子ども・障がい者などへの きめ細かい支援の充実を!

令和4年第1回定例会 一般質問 2月18日
予算等審査特別委員会 2月25日・28日



令和4年第1回定例会 一般質問 2月18日

【佐々木まゆみ議員】コロナ・災害対応について。

コロナ第6波をどう乗り越えていくのか、そして、今後の市民の皆様の暮らしの安全と経済再生へ向けてどう取り組むのか。

【郡市長】医療提供体制を確保し、社会経済活動を維持するためにも、1日も早いこの6波の収束が必要と認識している。今後についても、小児接種の開始や接種券の前倒し送付によるワクチン接種の加速化に取り組むとともに、地元経済を下支えするための独自の経済対策や消費喚起策などを講じて、地域経済の力強い回復を図ってまいりたい。

【佐々木まゆみ議員】マイナンバーカード取得について。

病気や障害などにより取得・申請手続きが難しい方に対しての周知徹底の取り組みをどのように進めていくのか。また「マイナポイント手続スポット」の周知徹底やデジタル活用支援員の増員など、各地域できめ細やかなサポート体制の強化が重要と考えられる事から、例えばショッピングセンターなどで買い物の途中で気軽に申請の手続きができるなど、気軽に誰もが申請しやすい体制作りが必要と考えるがどうか。

【市民局長】障害などにより手続きが困難な方に対しては、職員が入力を代行するといった個別のサポートを行っている。また新年度はショッピングセンターなど身近で足を運びやすい施設において写真撮影や申請書の作成支援を行う「出張申請サポート」を新たに実施すべく、現在検討を進めている。

【佐々木まゆみ議員】

3歳児健診における視力検査について。

3歳児健診において弱視を見逃さないような検査体制が、どのようにとられているのか。

また、本市としても早急に3歳児健診にスポットビジョンスクリーナーなどを導入し、検査の確実性を高めること

が重要と考えるがどうか。

【郡市長】市内の3歳児健診の案内は、近視や乱視等の早期発見・早期治療の重要性を説明しており、来年度からは、治療の遅れによるリスクについての注意喚起を加えるなど、より分かりやすい啓発に努めていく。

屈折検査機器による乳幼児のスクリーニング検査は有効性が高いとされていることは承知しているが、三密を避けるためのさらなるスペースの確保や、検査の所要時間も踏まえた動線の見直しなど様々な課題があることから、それらを整理した上で感染症の動向も見ながら導入について検討してまいりたい。

予算等審査特別委員会 市民局関連 2月25日

【佐々木まゆみ議員】男女共同参画について。

新規事業として、困難を抱えた女性・若者の支援向け「(仮称)女性・若者活躍推進会議」の開催、また、女性の暮らしや困難に関する研究実態調査を行う支援を進めるとしている。事業の目的を伺う。

【協働まちづくり推進部長】今後のまちづくりにおいては、女性や若者のなご一層の活躍が期待される中、一方で貧困や心身の不調、暴力、社会的孤立などの困難を抱えながらも支援の手に結びついていない方が少なくないとの認識から、困難の実情やその背景にある社会的な課題を探り、必要な支援の充実につなげていくことを目的とする。

【佐々木まゆみ議員】今年度の出張相談会「女子のためのほっとスペース」について。

8月以降毎月開催しており、2月20日の開催を含め347名の方々が足を運んでいる。30代から50代が多く、いわゆる働き盛りや子育て中の年代の方々が利用されている。

誰かに話したい、聞いてほしい、どこに相談すれば良いのかわからない等と悩まれている方に、しっかりと周知していくことが重要だ。また、コロナ禍で自粛し家や職場

だけの往復、またテレワークが増えている今だからこそ、顔を見ながら吐き出す場づくりが大事と考える。所見はどうか。

【男女共同参画課長】コロナ禍だからこそ、感染防止対策をしっかりと行った上で、対面で本音を明かすことができ安心して過ごせる場が必要とされていると実感している。

【佐々木まゆみ議員】女性の衛生用品支給について。

昨年8月より市内の主な施設において衛生用品の無料配布が始まり、大変感謝している。

この問題で解決しなければならないのは、困窮世帯や父子家庭に寄り添い、生活支援と共に、女性の命と人権に関わる問題をもっと言及することだと考える。また、貧困以外にも生理を取り巻く課題は実に多く、時には女性の社会進出への大きな壁ともなり得てしまう。

生理休暇の有無・取りやすさ、周囲の無理解や誤解、妊産婦以外の産婦人科医院受診へのハードルの高さや偏見、性教育のありかたなど、正しい知識の普及啓発に取り組むと共に、生理に苦しむことのない環境づくりが大事であり、社会全体の課題としての取り組みを広く周知していくことが大事と思うがどうか。

【男女共同参画課長】生理をめぐる課題のみならず、女性のライフステージに応じた健康課題について、社会全体で共有することに資するよう引き続き機会を捉えた取り組みを進めていく。

【佐々木まゆみ議員】「学び直しプログラム提供」について。

高校中退や中学校卒業、不登校などにより、10代で学びの経験が得られず就業や日常生活に影響を受けている女性に対し、伴奏型の学習支援を行うもの。その詳細はどうか。

【男女共同参画課長】困難な状況にある女性たちが、ご自身の暮らしや生活を自ら選択し、チャレンジしていく力を高めることを目的として実施するものである。学習プログラム終了後も、必要に応じて、様々な事業を効果的に組み合わせながら継続的に支援をしてまいりたい。

予算等審査特別委員会 健康福祉局関連

2月28日

【佐々木まゆみ議員】フレイル予防について。

今年度もフレイル予防アウトリーチ支援として、移動販売事業者や地域包括支援センター等と連携し、移動販売の場を訪れた高齢者にフレイルチェックを行うなどの取り

組みを試行的に実施しているが、実施状況はどうか。

【地域包括ケア推進課長】本年度は2か所の地域包括支援センターと連携し、松森地区では9月と10月の2回、移動販売の場を訪れた高齢者に対し、高砂地区では12月に1回、老人福祉センターへの来訪者に対し、フレイルチェックを実施し、必要に応じてアドバイスを行うなどのフレイル予防キャラバンを実施した。

【佐々木まゆみ議員】コロナ禍で外出自粛が続き運動不足の心配が起きている。平時に戻ったとき、自粛生活の影響でフレイルが進行し、これまで通りの生活がおくれなくなってしまった、という状況に陥らないよう、継続の取り組みと積極的な声かけが大事であると思うがどうか。

【健康福祉局長】フレイルの予防については、運動、栄養、そして社会参加、この3要素をバランス良く実践していくことが重要であると考え。これらの啓発活動をより一層行ってまいりたい。また社会参加の機会が失われないうち、地域の集いの場への専門職などの派遣を継続し、活動の活性化を図ってまいりたい。さらに、少人数や屋外での介護予防教室の開催や、スマートフォンアプリを活用したフレイル予防の習慣化に向けた取り組みも行っている。

【佐々木まゆみ議員】共生型サービスの推進について。

介護事業所と障害福祉事業所が垣根を越えてサービスを提供できるようにすべしと思うがどうか。

【障害者支援課長】共生型サービスは、人材や施設設備の有効活用と言った観点と併せ、利用者の安心につながるなどの意義などを改めてお知らせしながら協議を進めてまいりたい。

【佐々木まゆみ議員】障害福祉サービスを受けられていた方が介護保険サービスに移行することにより、これまでの支援が継続されるのかと不安に思っている方もいらっしゃる。丁寧な対応が必要と思うがどうか。

【障害者支援課長】太白区では障害者相談支援事業所と地域包括支援センター、障害高齢課が連携し、支援者向けに留意点をまとめた冊子を作成しており、現在では全区でこの冊子を活用し、研修も行いながら利用者への丁寧な説明に努めている。

その他、気象防災アドバイザーの活用、学校の感染対策、ジェンダー平等の実現についてなど質問した。